令和８年 11 月 13 日
海　上　保　安　庁

「衛星 VDES ワークショップ」を東京で開催

～ 世界各国の専門家等が一堂に会し、VDES 発展に向けて議論！～

海上保安庁は、11 月 10 日（火）から 11 月 13 日（金）までの間、東京において、国際航路標識機関（IALA）及び笹川平和財団（SPF）との共催により「衛星 VDES※ワークショップ」を開催しました。

本ワークショップでは、衛星 VDES の課題や今後の発展の方向性について議論が行われ、その成果は、今後 IALA 等におけるガイドラインの策定作業に活用され、VDES の早期実用化及び普及促進に寄与することが期待されます。

※VDES： VHF データ交換システム（VHF Data Exchange System の略）

１　衛星 VDES ワークショップについて

（１）日程：令和８年 11 月 10 日（火）～11 月 13 日（金）

（２）場所：笹川平和財団ビル

（３）参加者

海上保安庁：宮澤長官、江原交通部長ほか
IALA：エリクソン事務局次長ほか
SPF　：酒井常務理事ほか
世界各国の技術者・海事専門家
海事関係企業



長官挨拶



集合写真

２　開催背景

VDES は、船舶が従来から利用してきた VHF 帯の周波数を活用し、船舶間及び船舶と陸上との間で、より高度なデジタル通信を実現する次世代の海上通

信システムであり、平成 24 年、東京で開催された「次世代 AIS 国際標準化のためのワークショップ」において初めてその用語が確立されました。

以来、IALA をはじめとする国際機関において議論が行われ、昨年には VDES に関する条約改正案が IMO（国際海事機関）にて採択、また、令和 10 年１月には本条約の発効が控えているなど導入に向けた取組が加速しています。

今般、VDES の今後の可能性を広げる「衛星」について、専門家等が集まり議論する場として、「衛星 VDES ワークショップ」を開催しました。

３　結果概要

本ワークショップの冒頭では、当庁から宮澤海上保安庁長官、IALA からエリクソン事務局次長、SPF から酒井常務理事が挨拶を行いました。

ワークショップの場では、参加者に対し、我が国における VDES に関する取組みや世界各国における VDES の開発状況の紹介が行われたほか、VDES の衛星事業者と利用者がワーキンググループに分かれ、それぞれの観点から実利用に向けた課題や、今後の発展の方向性について議論が行われました。

議論の結果は、今後 IALA 等におけるガイドラインの策定作業に活用され、VDES の早期実用化及び普及促進に寄与することが期待されます。

【参考】国際航路標識機関(IALA)

国際航路標識機関は、世界の航路標識の改善や統一等により、船舶交通の安全で経済的かつ能率的な運航に寄与することを目的とした国際機関です。昭和32年に非政府組織として設立された国際航路標識協会を前身としています。海上保安庁は、昭和34年に協会に加入し、昭和50年からは理事を、令和６年の国際機関化後は理事国を継続して務めています。IALA本部は、現在、フランスのパリに置かれています。